

農林水産省から

「ツマジロクサヨトウ」に注意 ～さとうきびほ場で増加傾向～

農林水産省 消費・安全局 植物防疫課

- ・南北アメリカで発生以降、アフリカ、アジアまで**発生範囲を拡大中**
- ・アフリカでは、とうもろこしに甚大な被害
- ・日本では本年7月に、**九州・沖縄で初めて発生を確認**
- ・10月下旬以降、鹿児島県および沖縄県のさとうきびほ場で発生が確認される事例が**増加傾向**



南北アメリカ→アフリカ→アジアへと拡大

飛翔距離が長い、繁殖力が強い

ツマジロクサヨトウの特徴

幼虫の食害による被害



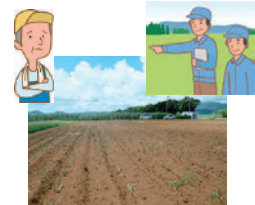
- ・気流に乗って長距離移動する
- ・1回の産卵数は150～200個
- ・生涯産卵数は最大1000個
- ・幼虫が葉、茎、子実を食害



多発すると被害が大きくなるおそれ！！



農薬散布による防除



被害の拡大防止のため、

- ✓ さとうきびのほ場を確認し、疑わしい害虫を発見した場合は、**速やかに問合せ先までご連絡ください**
- ✓ 発生が確認されている地域（※）では、**農薬の散布を検討してください**
- ✓ 病害虫発生予察特殊報で指定された地域では、**農薬の散布、深耕すき込み作業委託等に関して、さとうきび増産基金による支援があります**

（※）ツマジロクサヨトウに関する情報はこちらで確認
http://www.maff.go.jp/j/syouan/syokubo/keneki/k_kokunai/tumajiro.html



ツマジロクサヨトウに対しては以下の農薬を使用して防除を行ってください。

以下に記載した農薬はツマジロクサヨトウに対して登録はありませんが、植物防疫法第29条第1項の規定による防除を行うために使用が可能です。
 また、使用にあたっては購入した農薬の適用作物、使用方法、使用時期、散布液量、希釈倍数使用量、使用回数を守ることで、出荷停止等、流通に支障が出ることもありません。

○サトウキビ

農薬の種類	使用方法	使用時期	散布液量	希釈倍数使用量	本剤の使用回数
BPMC・MEP乳剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
BPMC・MEP粉剤	散布	収穫45日前まで		3～4kg/10a	4回以内
BPMC乳剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
MEPマイクロカプセル剤	散布	収穫90日前まで	-	500～1000倍	4回以内
MEP乳剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	1000倍	4回以内
MEP粉剤	散布	収穫45日前まで		3～4kg/10a	4回以内
カルボスルファン粒剤	株元処理土壌混和	培土時		6～9kg/10a	1回
カルボスルファン粒剤	播種処理土壌混和	播付時		6～9kg/10a	1回
クロチアニジン水和剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	2500倍	3回以内
クロチアニジン粒剤	播種処理土壌混和	播付時		6kg/10a	1回
クロラントラニプロール・ジノテフラン水和剤	散布	収穫45日前まで	100～300L/10a	2000倍	3回以内
クロラントラニプロール水和剤	散布	収穫30日前まで	100～300L/10a	5000倍	3回以内
クロラントラニプロール粒剤	株元散布	生育期但し、最終培土まで		4～6kg/10a	1回
クロラントラニプロール粒剤	播種土壌混和	播付時		4～6kg/10a	1回
フィプロニル粒剤	株元処理土壌混和	培土時		6kg/10a	1回
フィプロニル粒剤	播種処理土壌混和	播付時		4～6kg/10a	1回
プロチオホス粉粒剤	株元処理土壌混和	生育期但し、収穫90日前まで		15kg/10a	2回以内
ペンフラカルブ粒剤	株元散布又は株元土壌混和	培土時		4～6kg/10a	1回
ペンフラカルブ粒剤	播種土壌混和	播付時		6～9kg/10a	1回

○問合せ先

横浜植物防疫所
tel 045-285-7135
fax 045-211-2171

名古屋植物防疫所
tel 052-659-1357
fax 052-651-0115

神戸植物防疫所
tel 078-389-5320
fax 078-391-1757

門司植物防疫所
tel 093-321-2809
fax 093-321-0481

那覇植物防疫事務所
tel 098-868-1679
fax 098-861-5500